

# 佛心



平等心とは一子地  
一子地とは仏性

平等心とは一子地

一子地となげけたり

一子地は仏性なり

安養にいたりてびんごん

この御和讃には「一子地」という言葉が二度で  
てきます。この「一子地」というのは、菩薩様の境  
地で、あらゆる人々を平等に見る心を得ることで  
す。そして、すべての衆生を一人の子として慈しみ  
悲しむ心を持つことから「一子地」と言われており  
ます。またこの「一子地」には、仏になる性質とい  
う意味もあり、「仏性」と同じものになります。

阿弥陀如来より信心を受け賜る私たち念仏者  
は、阿弥陀如来の浄土に往生するとただちにこの  
「一子地」といわれる慈悲の心を得るのである、と  
親鸞聖人はこの御和讃の中にしたためられました。

決して誰一人として零れ落ちることなく、私も  
あなたも阿弥陀仏の一人の子として、その慈悲に  
包まれながら、この手を合わさせてもらっている。  
そう思うと拝読するたびに、「なんとも暖かな御和  
讃やなあ」と感じさせて頂きます。

二〇二一年九月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

さて、いまではワクチン接種率も高まり店内での飲食も許されるようになつきました。皆さんもマスクやソーシャルディスタンスなどのルールを守って、一年前より楽しんでいただいているのではないかと思います。私自身は友人が経営しているラーメン屋さんで一杯いただけただけのが何よりの喜びでした。(はやりラーメンはカウンターから出てくるのが一番です。)

しかし、残念なことにデルタ株などといった変異型のコロナが発生していることもあり、第四波はもうすぐ来てしまうのではないかと心配しています。実際に9月に予定していたオタワでの出張法要もみなさんの安全性を考慮して中止となりました。トロント仏教会は9月の第二日曜日からお寺を一年以上ぶりに開門してオンライン法要と並行して法要を勤修します。しかし、以前のようにソーシャルホールに行つて皆で法要後のお菓子やコーヒーをいただくことは、まだできそうにありません。そのようなか中で混乱される御門徒さんもおられるかなと心配していました。しかし、御門徒方からは「先生、これも諸行無常やねー」とか「大変やけど頑張つてね」と微笑みかけてくれる方もいて大変心強かったです。

いままで当たり前のようにならしていたお茶会は、コーヒーやクッキー、おにぎりなどを口にしながらか一時間ほど井戸端会議をする。そのような時間の中でよく耳にするのは、私の知らない日系の歴史のことや、日常生活のちよつとした悩み事、そして極希に歴代開教教師のゴシップ話などです。

それらの会話は、いつけん仏様の教えとは程遠い内容のように思えます。しかし、帰りの車の中でふとその日の井戸端会議の内容を思い出すと、「なんとも味わい深いお話を聞かせてもらっていたな、南無阿弥陀仏」と思うことがたまにありました。

つまりどういふことかと申しますと、お茶会などの御門徒さんとの何気ないやり取りや会話を通して、この私自身が大変多くの「お育てに預かっていた」ということです。「お育てに預かる」とは、この手を合わせ、念仏申す身に仕上げてくれることです。私たちがこの手を合わせるときというのは、一体どんなときでしょうか？

中には願ひ事をするときに手を合わせる人もいます。また嬉しいときや、寂しいとき、悲しいときにその手を合わせている方もおられるでしょう。そして、よく分からないけども何となくその手を合わせたくなる人もいます。

つい先日、私も何となく自然とこの手が合わさつていくことがありました。それはある雑誌で金子みすゞさんの「さびしいとき」という詩を読んだときのことでした。金子みすゞさんは浄土真宗の御門徒さんでありました。26歳にして往生されましたが、500以上の詩を残されています。その中には仏様のことを書かれた詩も数多くあります。「さびしいとき」という詩もその内の一つです。すこし読ませて頂きます。

私がさびしいときに よその人は知らないの  
私がさびしいときに お友達は笑うの  
私がさびしいときに お母さんは優しいの  
私がさびしいときに 仏様はさびしいの

たった四行で書かれたものではありませんが、さびしくもなんともあたたかい気持ちにさせてくれる詩です。

この詩を読んだときにふと思ひ出した記憶がありました。それは私が小学校5年生だったときのことです。当時の私は仲良しだったはずの友人からいじめにあつていました。

ある日、下校時間になると私のランドセルだ

けが知らないうちに無くなっている。周りを見渡しても誰も気に留めることなく、みんな知らないふりをする。教室のどこにもないので、校庭まで探してみるとグラウンドの端っこで砂埃にまみれた私のランドセルがポツンと捨てられてある。それを拾って砂埃を払いながら家まで帰る道というのは、何とも情けなく、なんとも惨めでさびしいものでした。

そして家に帰ると母親がいつものように「今日の学校は楽しかったか？」と聞いてくるわけです。自分が苛めにあっていることを素直に言い出せない私は「楽しかったよ」と一言で返事をします。

それは決して母親に心配をかけさせてくれないとかではなく、ただ単純に自分がいじめにあって寂しいおもいになっっているのを言いたくなかっただけでした。

しかし、さすが母親ですね。いま思うといじめられていた私も、素直になれない私も母はすべてお見通しだったような気がします。というのも、ある日、学校から帰ってくるいつものように「今日は楽しかったか？」とは聞かずに「なんか困っちゃったら何でも言っていけんね」と突然言葉投げかけてくれたのを今でも覚えています。それは素直になれない私へ母親からの精一杯の優しさであったように思われます。

ただ、当時の私はそんな優しささえも素直に受け入れられず、ある晩に母親へ八つ当たりをしてとんでもない言葉を吐いてしまいました。すると、それを見兼ねた当時一緒に住んでいた祖母が私の手を強く引つ張り、実家と渡り廊下で繋がっていた真つ暗な本堂に私を連れて行きました。「あー、これはこっぴどく叱られるなあ・・・」と思っていた矢先、祖母は静かに仏様の前で正座をして、私も横で座るように促していました。

どれぐらいの時間がたったか分かりませんが、祖母は叱るところか何も言わずにただ座って

いるだけでした。ずいぶん時間が経って私の心も落ち着いたころ、祖母が合掌をして「南無阿彌陀仏、南無阿彌陀仏」と念仏を申しており、私も自然と一緒に念仏を称えていました。

そんな私の合掌する様子を見てか祖母が「あんたが寂しがつちよんときは、この婆ちちゃんもお母さんも寂しい。そして仏様も寂しがつちよる。だけん、つらいときは今のようように手を合わせて“南無阿彌陀仏” っち言いよ」と言ってくれました。

そして実家の居間に戻ってからは、素直に母親へ今までのつらかったことを話す事ができました。母は何も言わず、ただただ私の言葉を聞いてくれていた気がします。

当時の虐められていた嫌な思い出というのは、どうしても拭い去ることができません。しかしそれは同時に私にとつて、母親の優しさは今も亡き祖母の温かい手の温もりを思い出させる、大切な思い出でもあります。

その祖母が教えてくれた阿彌陀如来のお慈悲というのには、私たちがつらく悲しいときに「頑張れ」と励ます仏様でも、「乗り越えんといけん」激励してくる仏様でもありません。「つらからうな」「寂しかろうな」と同じ想いに立つてくれる大慈悲の仏様であります。そして私たちの口からこぼれ出るお念仏はその阿彌陀仏の「必ず救う。我に任せろ」の呼び声のおはたらきであります。

このような阿彌陀如来のおはたらきを聞かせてもらうとき、私も母親もそして祖母も昔から阿彌陀如来の一人の子として、あたたかいお慈悲のお育てに預かっていたのだと感じずにはいられません。

はじめに頂きました御和讃、

平等心をうるるときを 一子地となづけたり  
一子地は仏性なり 安養にいたりてさとるべし。

すべての衆生を一人の子として慈しみ悲しむ心を持つて下さる阿彌陀如来。その仏様より信心を受け賜る私たち念仏者は、決して誰一人として逃されることなく、阿彌陀仏の一人の子として、そのお慈悲に包まれないながら、この手を合わさせてもらっている。

本日も皆様と合掌してお念仏申せる日を嬉しく感じ、お話を書かせていただきました。合掌

浄土真宗本願寺派 トロント仏教会  
駐在開教使 大内祐真

## 日本語法要のご案内

毎月第一と第三の日曜日（午後一時より）日本語での日曜法座をZoom配信にて行っております。ご参拝を希望される方は、トロント仏教会の事務所 [tbc@tbc.on.ca](mailto:tbc@tbc.on.ca) まで参拝希望の旨をメールしていただければ、法要のご案内と一緒にzoomのリンクを送らせていただきます。

※zoomリンクは英語法座と同じものを使用しています。時間帯が異なるだけですので、日英両法座の参拝を希望される方も同じリンク先を使用してください。

こんりゅうむじょうしゅうがん  
建立無上殊勝願  
ちようほつけうだいぐぜい  
超発希有大弘誓

「この上なくすぐれた願をおたてになり、  
世にもまれな大きな誓いを起こされた」

『誓われた願い』

現代の人々に「今、一番何がしたいですか？」と尋ねたら、どんな答えが返ってくるでしょうか？

もちろん年代によって差はあるでしょうが、どの年代にも共通して上位にあがってきたような答えに「のんびりしたい、ゆっくりしたい」があるような気がします。しかも「〇〇がほしい」から時間を空けたいというよりも、とりあえず「のんびりしたい」というのが先にあって、「〇〇したい」はそれから考えようというところがあるのではないのでしょうか？

私たちは「こうなったらいいなあ」と望んでいる「願い」がたくさんあります。しかし、その願望のすべてをかなえようと思っているわけでもありません。無理だらうけれども、ひよっとして運がよければかなうかもしれないなあと思っている程度のものがほとんどであって、なんとしても成し遂げたいという強い意志を伴っているものは限られているのです。「なんとしても」と誓いをたてることによってこそ、願いが願いのままで終わらないで、かなうことができるようになるのです。

法蔵菩薩は四十八の「願」を立てられました。それはあらゆる人々を救ってさとりに導きたいという思いに基づいた「この上なくすぐれた願」であって、私たちが望むような単なる「願い」ではありません。そのうえ、「願」の一つひとつには、もしもその願が完成しないのならば、自らも仏に成らないという決意が誓われています。決して願

いを願いのままで終わらせることのない「世にもまれな大いなる誓い」なのです。なかでも第十八番目の願が最もそのことを明らかにしている重要な願なのです。それは、

わたしが仏になったとき、あらゆる人々が、まことの心で信じ喜び、わたしの国に生まれると思つて、たとえば十声念仏とこえして、もし生まれることができないようなら、わたしは決してさとりを開くまい。ただし、五逆の罪を犯したり、正しい法を誇るものだけは除かれる

(『教行証文類』現代語版151頁)

と願われるように、「わたし(法蔵菩薩)が仏に」なることと「あらゆる人々が」浄土に生まれて仏になることがセットで誓われているのです。これは、人々の救いと自らのさとりを一つに考えて、どうあっても必ず成し遂げるといふ強い意志が打ち出されているのです。

本願寺出版社

『ひらがな正信偈』森田真円より



トロント仏教会ではキッズサンガ(子ども会)を9月の第二日曜日からオンラインとin-personで再開することとなりました。

Zoomでの参加を希望される方は、[kids.sanghatbc@gmail.com](mailto:kids.sanghatbc@gmail.com) までご連絡ください。

キッズサンガグループよりZoomリンクを送らせていただきます。

9月は12日19日の午前10時30分から行います。

子どものための法要後にワークショップなどお楽しみ会を行います。

※法要ならびにワークショップは英語で行います。

キッズサンガからのお知らせ



# 法要のお知らせ

## ひがんえ 秋期彼岸会

彼岸とは、生死の迷いを超えたさとりの世界である彼方(向こう)の岸のことで、彼岸会とは、迷いの世界である此方(こちら)の岸を離れて彼方の岸に至ることを願い、春分・秋分の日のお勤めする法要です。

春・秋の彼岸会は、インドや中国にはなく、日本で始められた仏教行事といわれ、各宗で修行をするのに好ましい時節としてお勤めされています。浄土真宗では、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めいたします。

トロント仏教会では、秋期彼岸会をin-personとzoomにて行います。

日時：2021年9月19日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会、Zoom

お勤めの後に彼岸会にちなんだ法話がございます。どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。



## 10月の祥月法要

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

トロント仏教会では、10月11月の祥月法要をin-personとzoomにて行います。

日時：2021年10月3日、11月7日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会、Zoom

※Zoomでの参拝を希望される方は、その旨を<tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。  
寺院事務所からzoom linkを送らせていただきます。

## 永代経法要

浄土真宗では、永代供養とはいわず、永代読経＝永代経といえます。亡き人のために永代経懇志を上げていただくことで、将来にわたって(永代に)念仏のみ教えを受け継がれていきます。永代経法要では、読経を通して今まで寺院を支えて下さった往生された方にも感謝を申し上げ、お勤めをさせていただきます。

日時：2021年11月21日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会、Zoom

お勤めの後に永代経にちなんだ法話がございます。  
どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。

